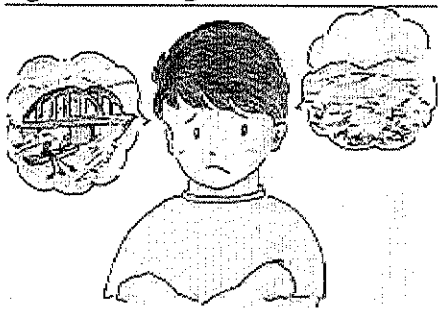
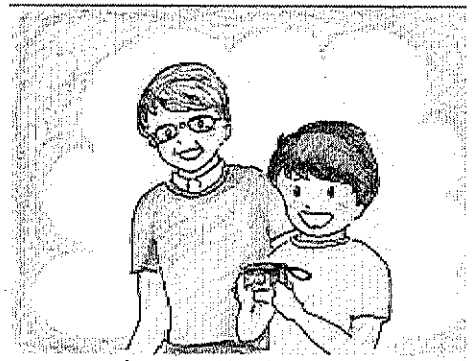
「待月」

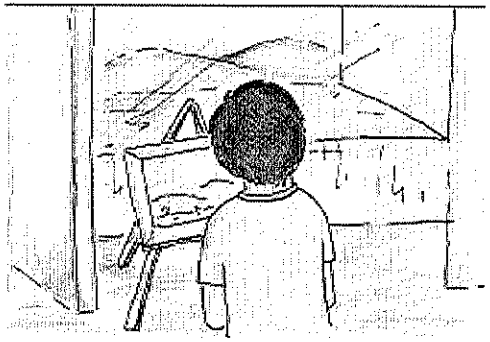
たかしは小学四年生です。
夏休みに、先生から、
（三次の自まんできる景色を見つけよう。）という宿題が出ました。
たかしは、（三次の自まんかぁ・・・鵜飼いや霧の海・・・。いろいろあるけどぼくだけの自まんの景色をしょうかいしたいなあ。）と、思いました。
けれども、しょうかいしたい景色はなかなか見つからず、夏休みも後一週間となってきました。困っているたかしを見て、おじいちゃんが声をかけました。
たかしから宿題の話を聞き、
「たかしだけの自まんのけしきか・・・。三次の山や川もいいんじゃないか？」
と言うと、たかしは、言い返しました。
「そんなの三次じゃなくてもどこだってあるし、どこもみんな同じだよ。」
おじいさんは、しばらく考えていましたが、
「そうだ。いいところを教えてあげよう。」



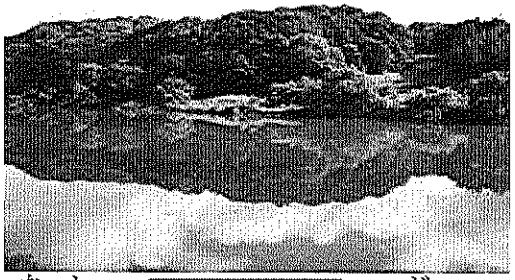
と言いました。たかしは、大よろこびです。
「本当！やったあ！じゃあ、カメラを持っていってばっちり写して来よう。」
「その場所をみて、ただカメラにのこすだけじゃなあ・・。」
おじいさんは、たかしを見て、自信ありげに笑いました。
その顔を見て、たかしは、
「そんなすごい場所なの！」
と、ますます喜びました。
二人は、さっそく出発しました。おじいさんは、車を走らせながら、
「たかし、いい天気だな。ほら、川がきれいだぞ。」
と話しかけましたが、たかしは、これからどんなすごい景色がみられるのかとわくわくしていて、何も答えませんでした。
車が着いたところは、奥田元宋・小由女美術館でした。
「ねえ、美術館は、友達が何人もしょうかいするって言っていたんだよ・・・。」
たかしは、小さな声で、つぶやきました。そんなたかしにかまわず、おじいさんはどんどん美術館の中に入っていきました。

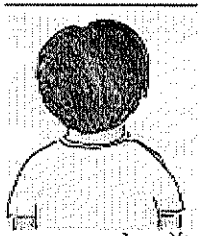


たかしは、奥田元宋さんの絵をみながら、
（すごい絵だな。もしかしてすごいってこの絵のことかな？でも三次の景色じゃないよなあ。）と思いました。
絵を見終わってホールに出た時、たかしは、展示してある一枚の絵がふと目にとまりました。
「この絵、きれいだなあ。山も川もこの絵みたいだときれいだよね。」
たかしが、そう言うと、おじいさんは、
「この絵は『待月』っていうんだ。三次の画家、奥田元宋さんが、ふるさとの自然の美しさをこの絵に描いたんだ。おじいちゃんはこの絵が大好きなんだ。」
「ふるさとって、この絵は三次のけしきなの？」
たかしは思わず、聞きました。おじいさんは、にっこり笑って、
「さあ、たかしに話したいい場所に行こうか。」
と、言いました。

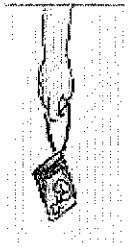


おじいさんは、たかしを車に乗せ、さっき通った川ぞいの長土手で車を止めました。
「ここが、たかしにみせたい場所だよ。」
「この川？ここは、さっき車で通った所じゃないか。」
がっかりしながら、車からおりたたかしは、はっとしました。
いつも見ていたはずの川の景色が、さっき美術館でみた『待月』の絵と重なって見えたのです。





おじいさんは、そっと言いました。
『待月』は、この山と川をかいた絵だよ。
奥田元宋さんが美しいと思ってかいたけしきを六十年たった今もこんなに近くで見ることができるなんて、すばらしいだろう。」
山の緑。青い空。川の水は、おだやかに流れています。たかしは、空につながる山の向こうから、今にも月が顔を出すのではないかと思いました。一枚の絵のような景色の中で水鳥だけが、音もなくすべるように泳いでいます。
おじいさんは、たかしに言いました。
「どうだい、ここの景色は？」
「うん、山も川も…。」
たかしは、そう言いかけて、カメラを手に持ったまま、シャッターをおさず『待月』の景色をじっと見つめていました。



「港町（だいがっ）」

名前

「ヨゼフ・・・。」と言いかけたかしは、なぜかメニューのシャッ

ターをおそるおそる見つめていたのでしょう。

気付き

今日の学習で新しく気づいたことや心に残ったことを書

きましょう。

自然　「待月」

〔小学校中学年　主題：身近な自然の美しさ　内容項目：3の（3）〕

授業展開例　ー学習指導案（略案）ー

（ア）主題名　身近な自然の美しさ　3－（3）

（イ）ねらい　地域の自然に関心がもてないたかしが，地元出身の画家，奥田元宋の絵『待月』のモデルとなった景色に感動する気持ちを通して，身近な自然の美しさに目を向け，素直に感動する心情を育てる。

（ウ）資料名　「待月」

（エ）学習指導過程

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点 （☆評価の観点）
導入	1　三次の景色を思い起こす。	○　三次で知っている景色は，どんな景色ですか。	○　校外活動での体験と関連付けて，三次の景色を思い起こさせる。
展開	2　資料を読んで考える。 ○　たかしは，三次の自然をどのように感じているか考える。	○　たかしは，三次の山や川をどのように思っているでしょう。 ・どこにでもあるから自分だけの自慢の景色にならない。 ・どれもあまり変わらない。	○　はじめにたかしが，三次の山や川をどう感じているかをとらえさせる。
	○　美術館で「待月」を観た時の気持ちを考える。	○　たかしは，美術館で「待月」を観てどう思ったでしょう。 ・きれいだな。 ・写真みたいだな。 ・こんな場所は三次にはないな。 ・こんな場所があるなら紹介したい。	○　資料提示は，「受け継がれる画家の魂 川合玉堂・児玉希望・奥田元宋」を見せながら行い，感想を自由に発表させる。 ○　美術館で絵をみた感想を発表させる。
	○　カメラのシャッターを押さずに景色を見つめた理由を考える。	◎　「山も川も・・・。」と言いかけたたかしは，なぜ，カメラのシャッターを押さずに景色を見つめていたのでしょう。 ・三次にもこんなきれいな場所があったんだ。 ・いつも見ているのに気がつかなかった。 ・すぐにカメラで撮るのはもったいない。 ・ずっと見ていたい。 ・絵と重なってきれいだ。 ・月が出る頃みてみたい。	○　「待月」の絵と同じような景色を観た感想を発表させる。 ○　カメラのシャッターを押すのを忘れてみつめ続けた理由をワークシートに記入させる。 ○　ワークシートの内容を話合い活動で高め合えるように新たな気付き等を発表しあう。 ☆　児童相互の交流を通して，自己の道徳的なものの見方や考え方を広げたり，深めたりすることができた

	3　自分の生活を振り返る。	○　身の回りにある自然で美しいと思った景色はありませんか。 ・草花や校舎の写真 ・夕焼けなどの写真	か。 ○　身近な自然の写真を提示し，身の周りの自然の美しさに目を向けさせる。
終末	4　心のノートの言葉を聞く。	○　心のノートに書かれているメッセージを読みます。	○　「美しい自然は，あなたの心も美しくします。」の言葉をメッセージのように語り聞かせる。

【参考資料】　小・中学校学習指導要領解説道徳編「第３章　道徳の内容」

３　主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

【第１学年及び第２学年】
(3)　美しいものに触れ，すがすがしい心をもつ。

美しいものや崇高なもの，人間の力を超えたものとのかかわりに関するものであり，それらに対して感動する心や畏敬の念をもった児童を育てようとする内容項目である。主に，第３・４学年の３の(3)及び第５・６学年の３の(3)と深くかかわっている。

科学が万能であるかのような錯覚を生みかねない今日の社会において，科学の発展を期待し理性の力を信じるとともに，人間の説明を超えた美への感動や，崇高なものに対する尊敬や畏敬の念をもち，人間としての在り方を見つめ直すことが求められている。美しいものに触れて素直に感動する気持ちや，気高いものや崇高なものに出会ったとき尊敬する気持ちなどを，児童の心の中に一層育てることが大切である。

この段階においては，特に，児童の生活の中に存在している身近な自然の美しさや心地よい音や音楽などに触れて夢を描き，物語などに語られている美しいものや清らかなものに素直に感動するような体験を通して，すがすがしい心をもつように指導していく必要がある。

【第３学年及び第４学年】
(3)　美しいものや気高いものに感動する心をもつ。

この段階においては，美しいもののみならず気高いものにも気付き，意識的に触れようとする態度を育てることが大切である。それは，想像する力や感じる力がより豊かになっていくからである。自然の美しさや気高いものに触れて，素直に感動する心を育てていくことが求められる。

【第５学年及び第６学年】
(3)　美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。

この段階においては，人間のもつ心の崇高さや偉大さに感動したり，真理を求める姿や自分の可能性に挑戦する人間の姿に心を打たれたり，芸術作品の内に秘められた人間の業を超えるものに気付いたり，大自然の摂理に感動しそれを包み込む大いなるものに気付いたりすることなどを通して，それらに畏敬の念をもつことが求められる。そして，人間としての在り方をより深いところから見つめ直すことができるように指導することが大切である。

3　主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

【中学校】

(2)　自然を愛護し，美しいものに感動する豊かな心をもち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。

人は，自然の美しさに触れ，自然と親しむことにより自らの人生を豊かにしてきた面が強い。自然を愛護するということは，人間が自然の主となって保護し愛するということではなく，自然の生命を感じ取り，自然との心のつながりを見いだして共に生きようとする自然への対し方である。

畏敬とは，「敬う」という意味での尊敬，尊重と，「畏れる」という意味での畏怖という面とが含まれている。自然とのかかわりを深く認識すれば，人間は様々な意味で有限なものであり，自然の中で生かされていることを自覚することができる。この自覚とともに，人間の力を超えたものを素直に感じとる心が深まり，これに対する畏敬の念が芽生えてくるであろう。また，この人間は有限なものであるという自覚は，自他の生命の大切さや尊さ，人間として生きることのすばらしさの自覚につながり，とかく独善的になりやすい人間の心を反省させ，生きとし生けるものに対する感謝と尊敬の心を生み出していくものである。

中学生の時期は，豊かな感受性が育ってくるとともに，自然や人間の力を超えたものに対して，美しさや神秘さを感じ，自然の中で癒される自己に気付くようにもなる。このような時期に，美的な情操を深め，感動する心を育てることは，豊かな心を育て，人間としての成長をより確かなものにすることにつながる。

指導に当たっては，自然や，優れた芸術作品等美しいものとの出会いを振り返り，そこでの感動や畏怖の念，不思議に思ったこと等の体験を生かして，人間と自然，あるいは美しいものとのかかわりを多面的・多角的にとらえることが大切である。また，自然を愛し，護ることといった環境の保全を通して，有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止める心を育てることが求められる。